

[成果情報名] 良質良食味で多収の水稲新品種「みのりの郷」

[要約] 「みのりの郷」は中晩生の良品質かつ多収の系統である。耐倒伏性に優れ、いもち病に強いことから、多肥栽培では多収が見込まれる。本品種の導入により、晩生品種への作期分散を進め、業務用品種の生産拡大を進める。

[キーワード] 中晩生、多収、良品質、業務用米、みのりの郷

[担当] 三重県農業研究所 農産研究課

[分類] 普及

[背景・ねらい]

人口減少や食生活の変化等により、「コシヒカリ」等家庭用米の需要は減少しつつあるが、業務用米の需要は急激に拡大している。そのため、実需者からは本県における栽培適応性の高い業務用新品種の開発が強く求められている。そこで、多収かつ良品質・良食味の品種を育成し、業務用米としての普及を図る。

[成果の内容・特徴]

1. 安定的に多収が得られる良品質品種の育成を目標として、平成 17 年 7 月に人工交配を行った。母親には耐倒伏性に優れ多収の「みえのゆめ」を、父親には高温登熟性に優れ良品質の「愛知 109 号」を使用した。平成 30 年度は雑種第 12 世代である。
2. 出穂期は「みえのゆめ」より 7 日遅く、成熟期は 6 日遅い。三重県の熟期区分では「中生の晩」に属する。
3. 稈長、穂長および穂数は「みえのゆめ」と同程度であり、草型は偏穂重型に属する。耐倒伏性は「みえのゆめ」と同等の‘強’である。
4. 葉いもち、穂いもち抵抗性はいずれも‘強’であり、白葉枯病抵抗性は‘中’である。また穂発芽性は‘やや易’である。
5. 玄米千粒重は「みえのゆめ」とほぼ同程度であるが、乳白粒等の未熟粒が少なく、外觀品質は優れる。また、玄米タンパク質含有率は同程度である。
6. 収量は「みえのゆめ」と同程度の多収である。
7. 食味は「コシヒカリ」と同程度の良食味である。
8. 多肥条件で栽培した場合、精玄米重は 8.3kg/a 増加する(標肥比 14%増)。また、倒伏やいもち病等の発生は確認されず、多肥条件での栽培は有効である。

[成果の活用面・留意点]

1. 普及予定は県内の平坦部～中山間地帯で、水利面から晩生品種の作付が可能な地域となる。
2. 耐倒伏性に優れ、いもち病の発生も少ないと考えられるため、多肥栽培により多収が見込める。
3. ごま葉枯病には強くないため、登録のある薬剤により適期防除を行う。
4. 白葉枯病には強くないため、常発地での栽培は避ける。
5. 県内で作付される他品種と比較して成熟期が遅く、斑点米カメムシ等の被害を受けやすいため、作付の団地化を図るとともに、適期防除を行う。

[具体的データ]

表1 「みのりの郷」の特性概要

品種名		みのりの郷		
交配組合せ		みえのゆめ／愛知109号		
特性	長所	1. 収量性が高い 2. 玄米の外観品質が良好である 3. 食味が優れる		
	短所	1. ごま葉枯病抵抗性が‘中’である 2. 白葉枯病抵抗性が‘中’である 3. 穂発芽性が‘やや易’である		
調査地		三重県農業研究所(三重県松阪市)		
調査年次		平成25年～27年、29年、30年		
品種系統名		みのりの郷	比)みえのゆめ	比)コシヒカリ
早晩性		中生の晩	中生の中	早生の中
草型		偏穂重型	偏穂重型	中間
出穂期	(月・日)	8.10	8.03	7.15
成熟期	(月・日)	9.12	9.06	8.16
稈長	(cm)	69	70	87
穂長	(cm)	20.9	20.8	19.6
穂数	(本/㎡)	370	373	474
耐病性	葉いもち	強	強	弱
	穂いもち	強	強	やや弱
	ごま葉枯病	中	弱	やや弱
	白葉枯病	中	やや弱	中
耐倒伏性		強	強	弱
穂発芽性		やや易	やや難	難
精玄米重	(kg/a)	59.4	58.8	57.4
同比率	(%)	101	100	98
玄米千粒重	(g)	23.6	23.4	21.0
玄米品質		上の中	上の中	中の中
食味		上の中	上の中	上の中

注1) 葉いもち、穂いもちの圃場抵抗性は‘不明’であるが、現在の県内の主要ないもち病菌のレース下では、ほとんど発生が認められないため、県内の栽培における抵抗性は‘強’と考えられる。

注2) 移植期は、みのりの郷、みえのゆめが5月15日、コシヒカリが4月25日。

表2 多肥条件での生育収量調査結果

試験区	品種名	出穂期	成熟期	病害等発生程度(0-5)			稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	千粒重 (g)	精玄米重 (kg/a)	同比率 (%)	玄米品質 (1-9)
		(月・日)	(月・日)	倒伏	葉いもち	穂いもち							
標肥	みのりの郷	8.8	9.13	0.0	0.0	0.0	68	20.3	389	23.4	57.9	101	4.0
	比)みえのゆめ	8.2	9.5	0.0	0.0	0.0	66	20.2	413	21.9	57.1	100	6.0
多肥	みのりの郷	8.10	9.16	0.0	0.0	0.0	75	20.9	396	23.2	66.2	102	3.0
	比)みえのゆめ	8.1	9.7	0.0	0.0	0.0	72	21.3	409	22.7	65.1	100	5.5

注1) 年度:2018年、場所:三重県農業研究所内圃場(松阪市)、移植期:5月15日

注2) 施肥量(N-P-K) 標肥区:基肥 0.48-0.72-0.56kg/a 追肥(出穂期20日前)0.4-0-0.4kg/a

多肥区:基肥 0.72-1.08-0.84kg/a 追肥(出穂期20日前、10日前)各0.3-0-0.3kg/a

注3) 病害等発生程度は「無」(0)～「甚」(5)の6段階で評価。

注4) 玄米品質は精玄米の外観を「上上」(1)～「下下」(9)の9段階で評価。

(大野鉄平)

[その他]

研究課題名:みえのニューライス開発事業、水稻の新品種開発事業、みえの多彩なお米商品の開発と戦略的販売体制の構築、原種及び奨励品種決定調査事業、市場ニーズに適合した業務用新品種の育成

予算区分:県単、国補及び共同研究

研究期間:平成17～30年度

研究担当者:大野鉄平、山川智大、太田雄也

発表論文等:種苗法に基づく品種登録出願(平成30年10月)